

宇治市埋蔵文化財発掘調査報告書 第66集

# 岡本遺跡・瓦塚古墳発掘調査報告書

2007

宇治市教育委員会







宇治市埋蔵文化財発掘調査報告書 第66集

# 岡本遺跡・瓦塚古墳発掘調査報告書

2007

宇治市教育委員会



## 序

宇治市では、現在、「源氏物語のまちづくり」をテーマに総合的な街づくり事業に取り組んでいます。これは、源氏物語宇治十帖という平安時代を代表する古典文学のイメージに、平等院や宇治上神社の世界遺産や、宇治市街遺跡や白川金色院などの遺跡の持つ歴史性を託したものと言えるでしょう。

このような流れの中で、近年の宇治市内の発掘調査では、宇治市街遺跡や浄妙寺など、平安時代の遺跡が多く脚光を浴びていますが、それ以外の遺跡でも重要な遺跡があります。今回行われた岡本遺跡・瓦塚古墳もそのひとつであります。

岡本遺跡は昭和 60 年に発掘調査が行われ、その際に岡本廃寺などが発見されるなど注目を集めた遺跡です。また瓦塚古墳は、昭和 62 年に発掘調査が行われ、あまり例のない礫槨が発見され、玉杖形金銅製品やガラス玉などが出土しました。今回の発掘調査は、ごく小規模のものでありますが、研究の一助となれば幸いです。

末筆になりましたが、発掘調査の実施にあたって、ご理解とご協力をいただいた関係各位に心より感謝の意を表します。

平成19年3月

宇治市教育委員会

教育長 石 田 肇

## 例 言

1. 本書は、共同住宅建設に伴う岡本遺跡試掘調査と、瓦塚古墳範囲確認調査報告書である。
2. 本書は宇治市埋蔵文化財発掘調査報告書の第66集にあたる。
3. 本書で使用する座標は、日本測地系を用いた。
4. 本書に収録する遺物写真は、寿福写房（寿福 滋）に委託した。
5. 本書の執筆は、荒川 史が行った。
6. 本書の編集は、宇治市歴史資料館文化財保護係が担当し、実務を荒川が行った。

## 本文目次

第1章 岡本遺跡・瓦塚古墳の歴史的地理的環境と過去の調査	1
1 地理的環境	1
2 歴史的環境	1
第2章 岡本遺跡	3
1 調査に至る経過と調査経過	3
2 検出遺構	5
3 出土遺物	5
4 総括	6
第3章 瓦塚古墳	7
1 調査にいたる経過と調査経過	7
2 調査の概要	7
3 総括	8

## 挿図目次

第1図 岡本遺跡・瓦塚古墳周辺の遺跡と地形	2
第2図 トレンチの配置と開発計画	4



# 第1章 岡本遺跡・瓦塚古墳の歴史的・地理的環境と過去の調査

## 1 地理的環境

岡本遺跡・瓦塚古墳のある宇治川右岸の地域は、東に古生代の笠取山地があり、その西には大阪層群によって構成される丘陵部がある。さらにその西には宇治川が形成した沖積地が広がる。宇治川右岸の沖積地の中では、五ヶ庄地域が最も広く、南からの宇治川と北からの山科川によって段丘地形が形成されている。この段丘面には、東から流れる弥陀次郎川によって扇状地が形成されており、北部がやや高い地形となっている。

岡本遺跡・瓦塚古墳は、五ヶ庄の段丘の南側縁辺部にある。

## 2 歴史的環境

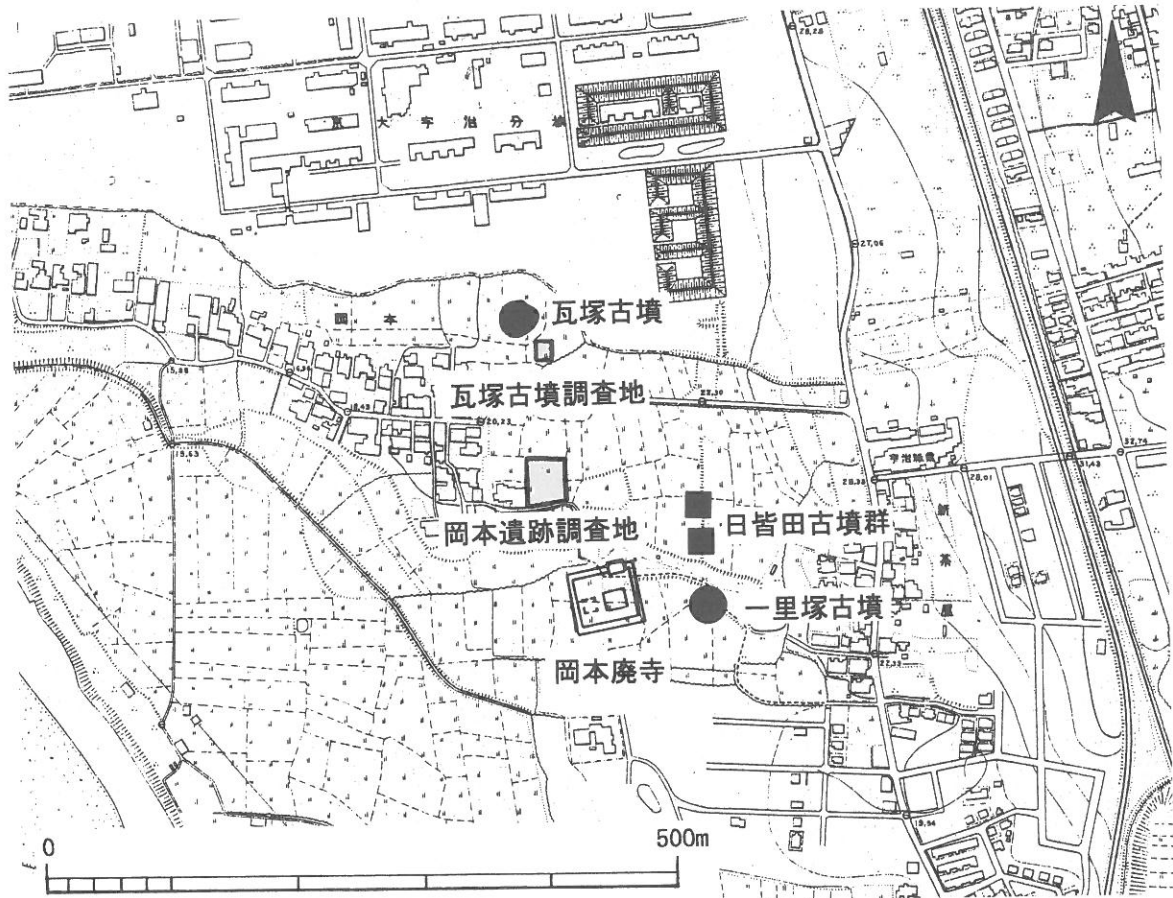
宇治川右岸の北部地域は、現在木幡と五ヶ庄とに分けられているが、本来は同じ「許波多」と呼ばれていた地域であったと考えられている。それは五ヶ庄という地名が中世以後の地名であること、式内許波多神社の旧社地が現在の五ヶ庄にあることなどからである。集落遺跡の分布も、まず五ヶ庄北部に中核的な集落が出現し、古墳時代後期以後木幡や五ヶ庄南部に拡散する。

五ヶ庄地域で最も古い遺物は、北部にある二子塚古墳墳丘から出土したナイフ形石器である。古墳盛土中からの出土のため、具体的な遺跡の場所は明らかではないが、古墳の周辺に遺跡があった可能性は高い。

縄文時代の遺跡としては、二子塚古墳の周辺に広がる寺界道遺跡がある。ここでは縄文時代晩期の貯蔵穴や土器棺墓が検出されている。また、二子塚古墳外堤下層から後期の土器が出土している。弥生時代の遺構は現在のところ発見されていないが、寺界道遺跡から前期の土器片が出土している。

古墳時代に入ると遺跡数が増加するが、古い段階の古墳は五ヶ庄南部で多く見られる。前期の定型的な古墳は現在発見されていないが、五ヶ庄南部の日皆田古墳群で2基の小型方形墳がある。中期古墳では、同じ南部の瓦塚古墳がある。後期になると、北部に全長112mの前方後円墳である二子塚古墳が築造される。また、南部ではこれにやや後れて一里塚古墳が築造されるが、早い段階に破壊されたため、出土した須恵器が知られるのみである。二子塚古墳の築造以降、東部の丘陵上には木幡古墳群が形成される。現在120基ほどが知られているが、削平された古墳の発見が数多くあり、総数は150基を越えるものと思われる。

古墳時代の集落では、前期の土器が木幡東中遺跡（旧木幡神社遺跡）で出土しているものの、明らかではない。明らかな集落の出現は古墳時代後期～飛鳥時代で、木幡の西浦遺跡、北部の寺界道遺跡、南部の岡本遺跡があり、これらの集落は中世まで存続する。また白鳳時代には、岡本遺跡の南に法起寺式の伽藍配置を持つ岡本廃寺が建立される。



第1図 岡本遺跡・瓦塚古墳周辺の遺跡と地形

岡本遺跡の調査は、昭和59年度に行われている。宅地造成に伴う大規模な調査で、この時に岡本廃寺と日皆田古墳群が新たに発見されている。寺院と古墳群を除く岡本遺跡としての遺構は、埋没深度が浅く全般的に削平を受けているため掘立柱建物1棟を検出したのみであるが、古墳時代から中世までの遺物が出土しており、長期にわたる集落が存在していたものと考えられている。

瓦塚古墳の現況は畑となっており、耕作によってかねてより埴輪などが出土していた。また古墳の周囲は水田となっており、この部分が周溝と考えられている。瓦塚古墳の調査は、これまで2回行われており、1回目は宇治市史編纂に伴う測量調査で、昭和46年に実施している。2回目は昭和62年に内容確認調査を実施している。この調査では、埋葬施設2基を確認し、さらに段築テラスと埴輪列、葺石を確認した。埋葬施設は礫塚と木棺直葬で、礫塚の上部に木棺を検出したことから、築造当初の埋葬施設は礫塚で、その後木棺が直葬されたことが明らかとなった。いずれの埋葬施設も盗掘によって大きく破壊されていたが、礫塚からは馬具が、木棺からは鉄鏃・刀子・棺金具が出土している。さらに盗掘坑からはいずれの副葬品かは明らかではないが、ガラス玉や玉杖形金銅製品などが出土している。

これらの調査成果から、瓦塚古墳は直径約30m、高さ約4mの二段築成の円墳であることが推測された。しかしこの調査では、周溝と考えられる水田部分の調査は行っていないため、周溝の規模などについてはよくわかっていない。

## 第2章 岡本遺跡

### 1 調査に至る経過と調査経過

#### A 埋蔵文化財発掘の届出と調査に至る経過

平成17年12月19日付で安井進より、岡本遺跡の範囲内にある五ヶ庄岡本4番地において軽量鉄骨造2階建ての共同住宅建設を行う旨の埋蔵文化財発掘の届出書が提出された。これによれば基礎掘削は41cmという設計であった。当該地付近では、昭和59年度に東側の宅地造成に伴う発掘調査を行っており、その成果によれば当該地に最も近い地点での遺構面は表土直下で、今回の開発の掘削は遺跡に影響を及ぼすことが予想された。しかし、遺構面が浅いため、耕作等によって削平されており、遺構が残っていない部分が認められるため、遺構の遺存状況を確認するための試掘調査を実施することとし、調査は国庫補助事業として実施することとした。

#### B 発掘調査

調査は、最も深い基礎の入る建物の東辺と西辺に、幅1m、長さ24.5mと23mのトレンチ2本を設定した。調査は3月10日にトレンチ設定を行い、重機掘削を行った。

掘削は西側のトレンチ（1トレンチ）から行ったが、予想通り耕作土及び床土直下で地山面を検出した。そして遺存状況は良好でないものの、溝・ピットなどの遺構を検出した。東側の2トレンチでも同様の状況で、特にトレンチ南部で遺構密度が高く、遺跡の中心が調査地南部から南側の金品寺に広がるものと推測された。

3月15日に全体写真を撮影し、同日に平面図・土層断面図の測量を行った。17日に埋め戻しを行い、現地作業を終了した。

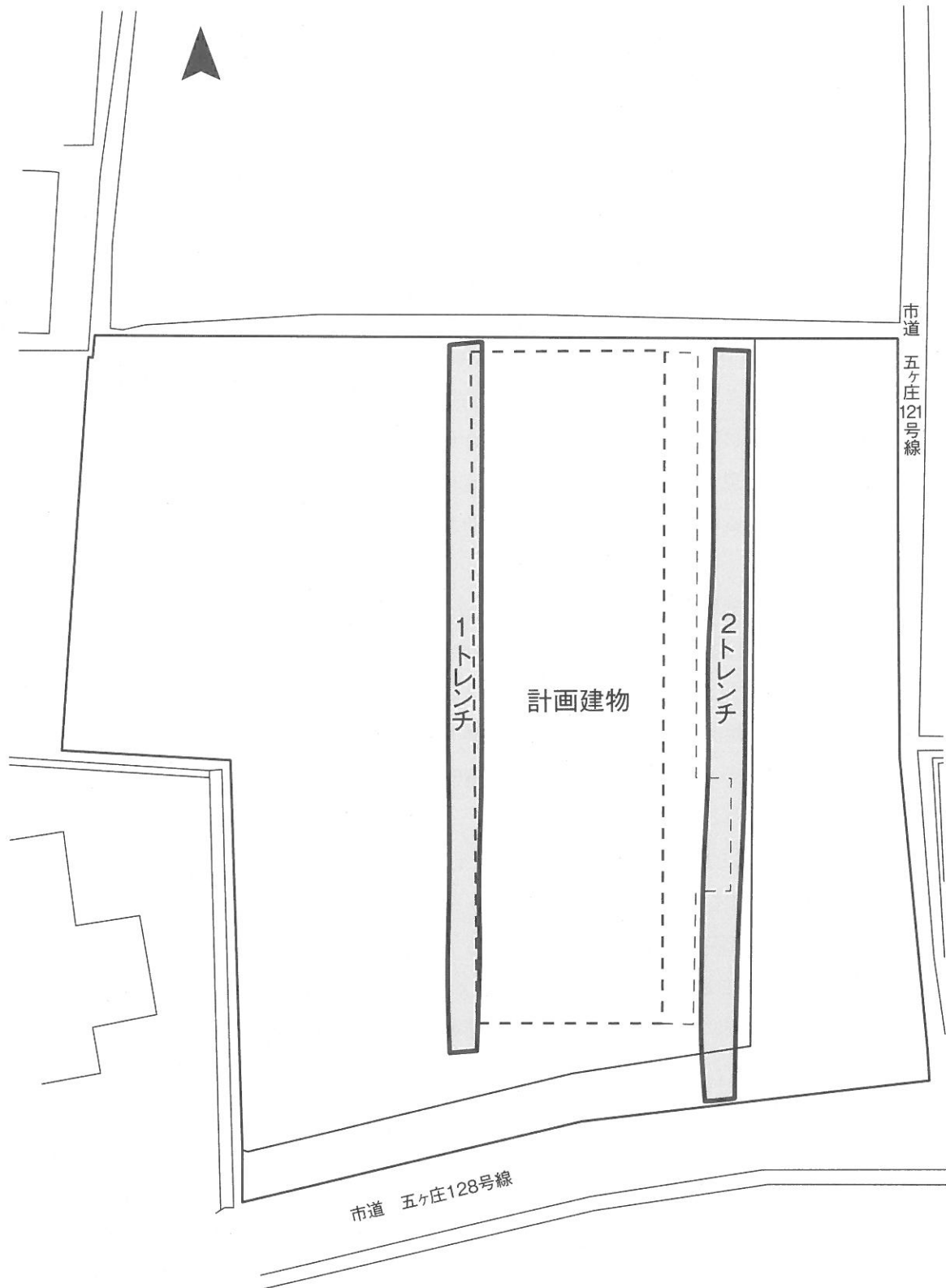
#### C 調査終了後の措置

調査の結果、遺跡の埋没深度が現地表面から0.4mであり、遺構も遺存することが明らかになったため、今後の開発方について協議を行った。その結果現地表から0.7mの盛土を行うことに設計変更することとなり、このため遺構面は保護されると判断され、本調査をもって調査は終了することとし、工事が実施された。

#### D 発掘調査組織

発掘調査組織は以下のとおりである。

発掘調査責任者	宇治市教育委員会	教育長	石田 肇
発掘調査事務局	宇治市歴史資料館	館長	吉水利明
	同	文化財保護係長	杉本 宏
発掘調査担当	宇治市歴史資料館	文化財保護係 主査	荒川 史
		主事	浜中邦弘
発掘調査参加者	大原瞳、表原克代、北澤英子、久保千恵子、宮林愛加、山村沙奈美		



第2図 トレンチの配置と開発計画

## 2 検出遺構

### A 層序

調査地の基本的な層序は、下層から基盤層・包含層・表土（耕作土）となる。基盤層は、黄灰色系のシルトからなる。大阪層群に由来する土が再堆積したものと思われる。地表下約 0.4 m で検出した。

包含層は、褐色系の砂質土や粘質土であり、遺物の包含はごく微量である。この上層に水田の床土と耕作土がある。

### B 検出遺構

今回調査した 1・2 トレンチで検出した遺構は、主に溝・土壇・ピットである。

1 トレンチでは溝・土壇・ピットを検出している。いずれの遺構も遺存状態が悪く、深さ 2～3 cm 程度しか残っていない。このため、遺構の性格を特定できる物はなく、また遺物も細片のみであるため時期を特定できる物はない。

2 トレンチでは、溝・ピットを検出している。遺構はトレンチの南半部に集中しており、調査地の南東部以南に遺跡の広がりがあるものと考えられる。

**SD08・10** トレンチのほぼ中央で検出した東西方向の溝である。検出幅 1.7 m、深さ 6 cm を測る。2本の溝が切り合っている。SD10をSD08が切っている。SD08からは岡本廃寺出土の瓦と同文の軒丸瓦や丸瓦、平瓦が出土している。

**ピット群** SD08・10の南方で、直径 30cm から 50cm の数基のピットを検出している。これらは、トレンチの壁際に南北に並ぶようにも見えるが、トレンチ幅が狭いため掘立柱建物になるかは不明である。これらのピットの内、p7とp9は他のピットと異なり、黒色の強い埋土である。このことからこれらのピットは時期の異なる可能性が高い。ちなみにこれらのピットからは 13 世紀前半代の土師器皿などが出土している。

## 3 出土遺物

今回の調査で出土した遺物は、整理箱 3 箱分になる。出土遺物には、土師器、瓦器、近世陶器、瓦類、鉄釘などがある。また 1 点のみ須恵器片も出土している。これらの遺物は細片が多く、図示し得た物は少ない。遺構別では SD08 からの瓦が最も多く、p9、p7 の土器類がこれに次ぐ。

### A. 土器・陶器（図版 3）

土器は 11 点を図示した。1～8 は土師器の皿である。1 はての字状口縁の退化したもので、口径 10.4cm、p7 出土。4 はコースター形のもの。口径 10.2cm、p5 出土。5 は二段ナデを施すもの。口径 10.4cm、p5 出土。その他は 1 段ナデ、もしくは 1 段ナデ面取り口縁を持つもので、口径 8.8～15.6cm。2 は p9、3・6 は p5、7 は p4、8 は p7 出土である。

9・10 は瓦器碗の底部である。9 は p9 出土、10 は包含層出土。11 は備前系のすり鉢である。

包含層出土。

### B. 瓦 (図版 3)

瓦は全部で 30 点ほど出土している。これらのほとんどが S D O 8 からの出土である。

**軒丸瓦** 軒丸瓦は 1 点出土している。岡本廃寺の創建瓦である軒丸瓦 A 類である。

**丸瓦・平瓦** 丸瓦・平瓦は細片のものばかりで、全形を伺えるものはない。丸瓦は、岡本廃寺の調査では、行基式で凸面ナデ調整のものと縄叩きのものが確認されているが、今回の調査ではナデ調整のもののみ出土している。平瓦も同様で、ナデ調整のものと縄叩きの 2 種類が認められ、縄叩きでは縄目の粗いもの (14) と細かいもの (15) の 2 種類がある。

### C. 鉄釘

鉄釘は 1 点のみ出土している。包含層中出土。

## 4 総 括

今回の調査では、主に中世の遺構を確認することができた。また調査地の南東約 60 m に位置する岡本廃寺に係る遺物も出土した。

岡本廃寺の調査では、遺構としては明確ではないが、13 世紀前半を中心とする遺物が包含層中から多量に出土している。これは今回の調査で出土した遺物とまさに同じ時期であり、寺院廃絶後、寺院のあった地点から今回の調査地にかけて中世の集落が広がっていた可能性が高くなった。今回の調査では、調査地の南東部に遺構密度が高くなる傾向が認められることから、本調査地付近が中世岡本遺跡の北西端になることを示すのかもしれない。

今回の調査は、小規模のものであったが、集落の範囲を探る一つの手がかりになるものと思われる。

## 第3章 瓦塚古墳

### 1 調査に至る経過と調査経過

#### A 埋蔵文化財発掘の届出と調査に至る経過

平成18年4月28日付で、松下渉から宇治市五ヶ庄瓦塚30-10他における埋蔵文化財発掘の届出が提出された。当該地は、瓦塚古墳の周溝跡と考えられている水田を隔てた東側に位置しており、以前から資材置場として利用されていた。水田との比高は50cm以上あり、資材置場の造成の際に盛土されたものと考えられた。開発の計画は、造成や道路建設を伴わない住宅5戸の建設であったため、京都府基準によれば立会調査に該当するものであった。

しかし、第1章で述べたとおり、瓦塚古墳の昭和62年の調査では、周溝部分についての調査を全く行っていないため、周溝の規模等の情報が無い状態であった。このため当該地に周溝の外側のラインが存在する可能性が考えられたため、事業者に協力を依頼し、範囲確認調査を実施することとなった。

#### B 発掘調査

発掘調査は、2m×9mのトレンチを、古墳に対して直交する方向に設定した。調査は6月7日に重機掘削を実施し、その日の内に遺構検出を行った。その結果、溝、方形の土壙を検出したが、当初の目的である周溝の肩はトレンチ内では検出しなかった。翌8日に写真撮影を行い、図面作成を行った。その後埋め戻しを行いすべての作業を終了した。

#### C 発掘調査組織

発掘調査組織は以下のとおりである。

発掘調査責任者	宇治市教育委員会	教育長		石田 肇
発掘調査事務局	宇治市歴史資料館	館長		吉水利明
	同	文化財保護係長		杉本 宏
発掘調査担当	宇治市歴史資料館	文化財保護係	主査	荒川 史
			主事	浜中邦弘
発掘調査参加者	北澤英子			

### 2 調査の概要

調査地の基本的な層序は、基盤層の上に旧水田の耕作土と床土、その上が現代の盛土である。盛土は4層以上あり、徐々にかさ上げが行われてきたものと思われる。盛土の下は水田の耕作土と思われる褐灰色粘質土でその下層には床土の層がある。床土の下層はすぐに基盤層となり、包含層は認められない。

検出した遺構は、溝・土壙・ピットである。

溝はトレンチ西部で検出しており、並行した2条の溝を検出している。SD01は西側にある溝で、検出長1.7m、幅0.15～0.3m、深さ3cm。SD02は、検出長2.7m、幅0.15～0.3m、深さ3cmを測る。

土壙SK04は、長方形を呈する土壙で、北辺はトレンチ外にのびるため正確な形状は不明である。検出長3m、幅1.2～1.5m、深さ5cm。

ピットは3基検出している。直径15cm～30cm。

今回の調査では遺物は全く出土しておらず、遺構の性格や時期は不明である。

### 3 総 括

今回の調査では、当初予想していた瓦塚古墳の周溝は検出しなかった。このことから、瓦塚古墳の周溝は、今回の調査トレンチから水田までの間で立ち上がっているものと思われる。明治時代の地籍図によれば、本調査地の地割は現代のものと同様であるため、古墳の周溝の位置を正確に反映している可能性が高い。今回検出した遺構は、遺物等の出土がなかったためその性格や時期は不明であるが、少なくとも瓦塚古墳の範囲を、ある程度限定することが可能になった。

#### 〈参考文献〉

宇治市教育委員会「Ⅲ. 岡本廃寺・岡本遺跡発掘調査概要」『宇治市埋蔵文化財発掘調査概報』第10集 1987

宇治市教育委員会「Ⅰ. 瓦塚古墳発掘調査概要」『宇治市埋蔵文化財発掘調査概報』第11集 1988



# 図面図版

図版 1 . . . 調査地位置図

図版 2 . . . 岡本遺跡遺構実測図

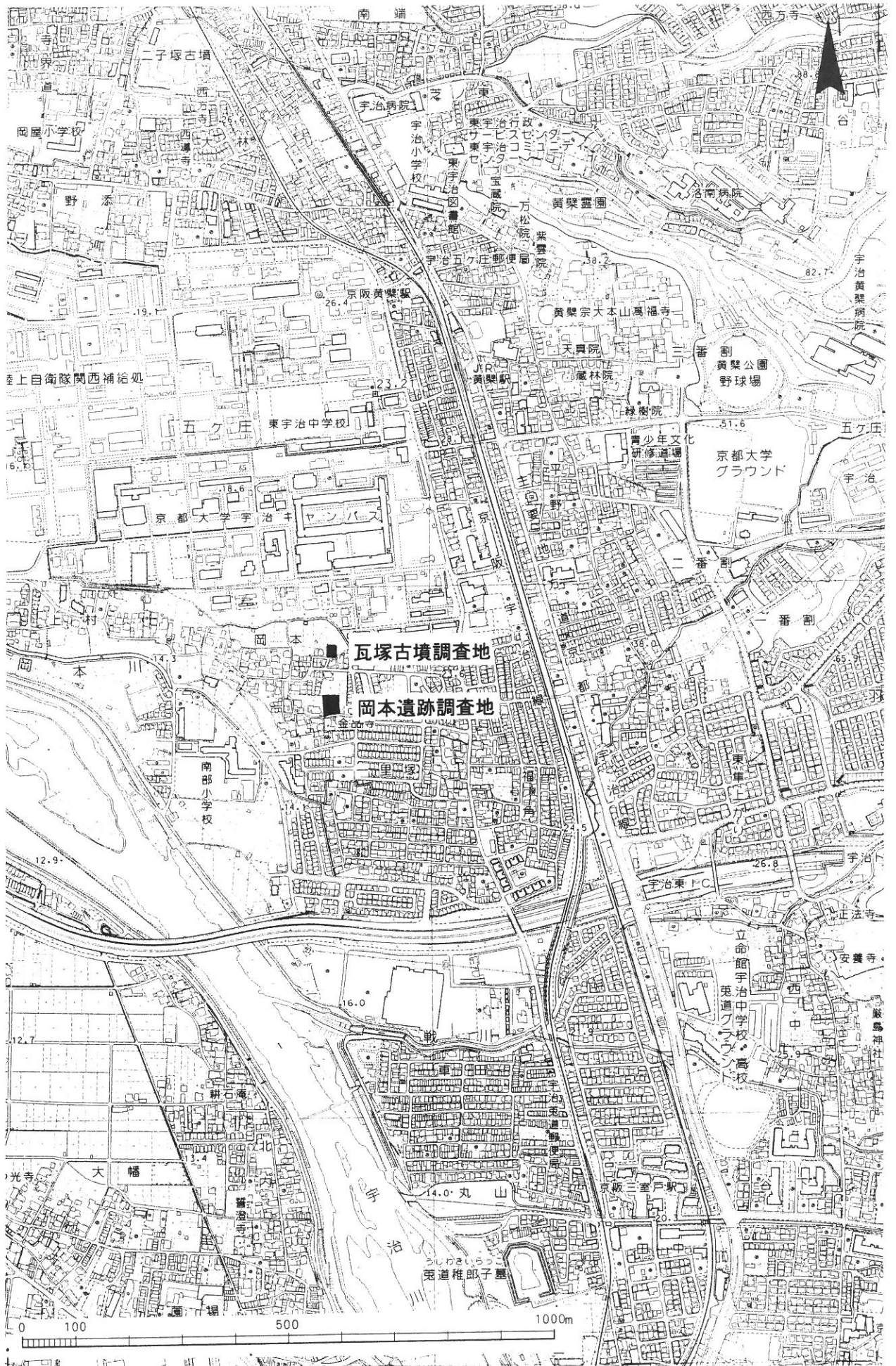
図版 3 . . . 岡本遺跡出土遺物

図版 4 . . . 瓦塚古墳トレンチ配置図

図版 5 . . . 瓦塚古墳トレンチ実測図

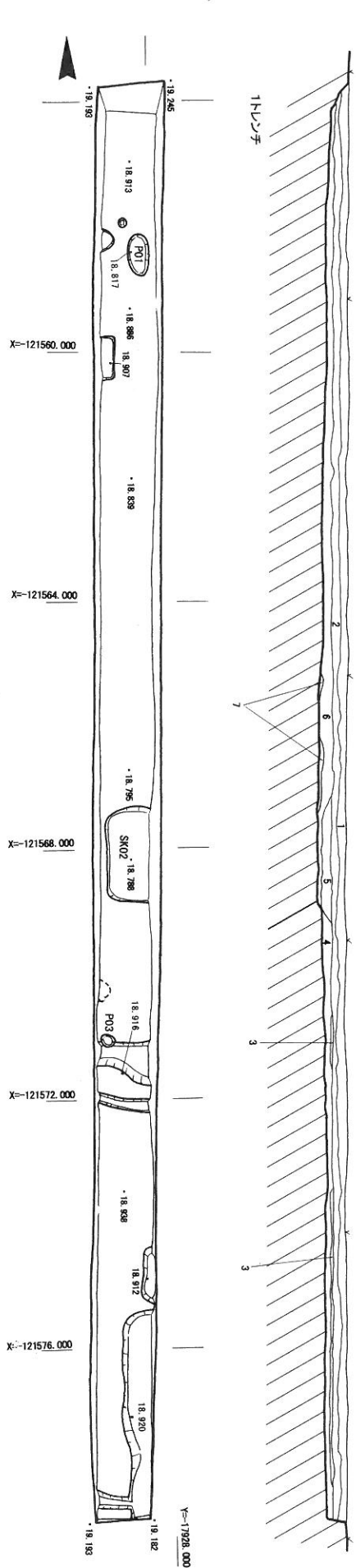


図版1 調査地位置図

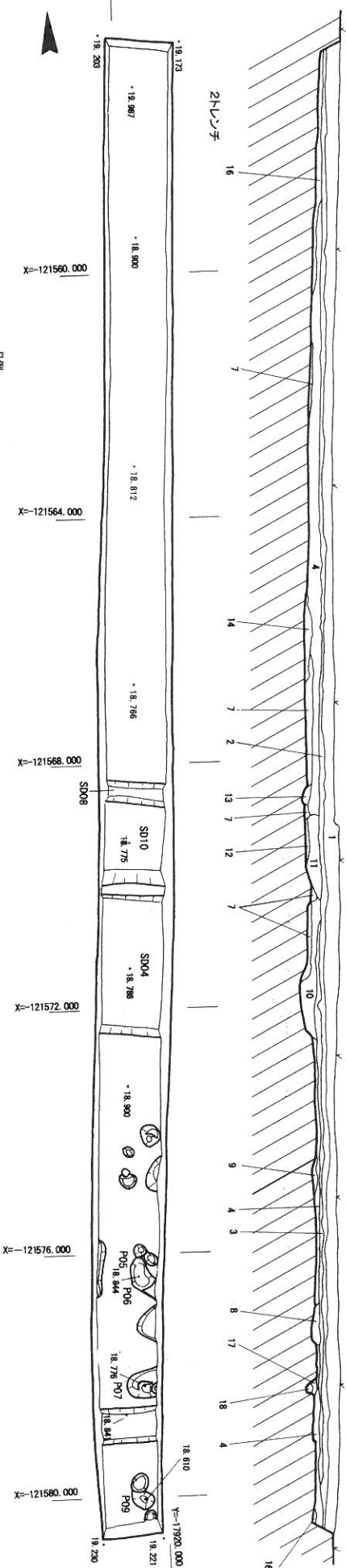


図版2 岡本遺跡遺構実測図

L=20,000m

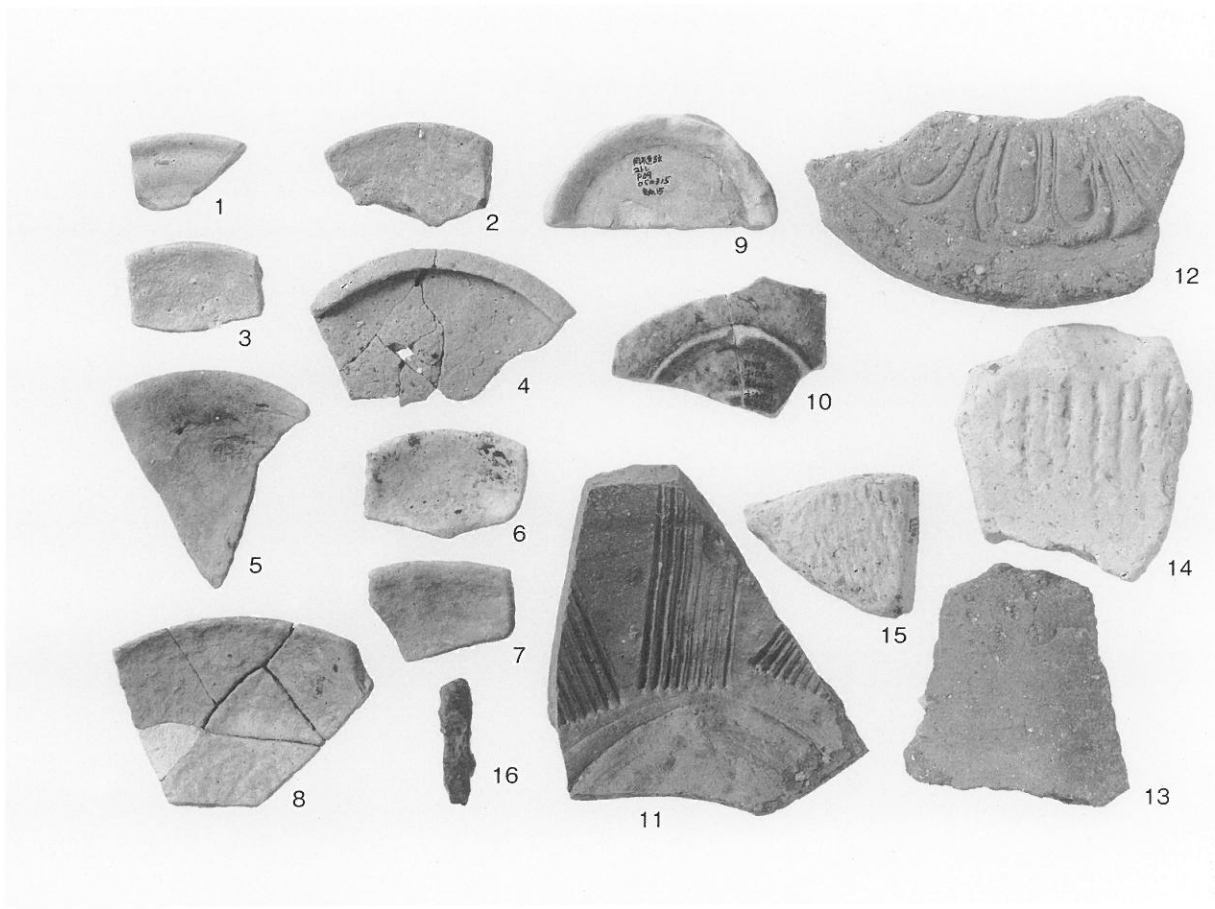
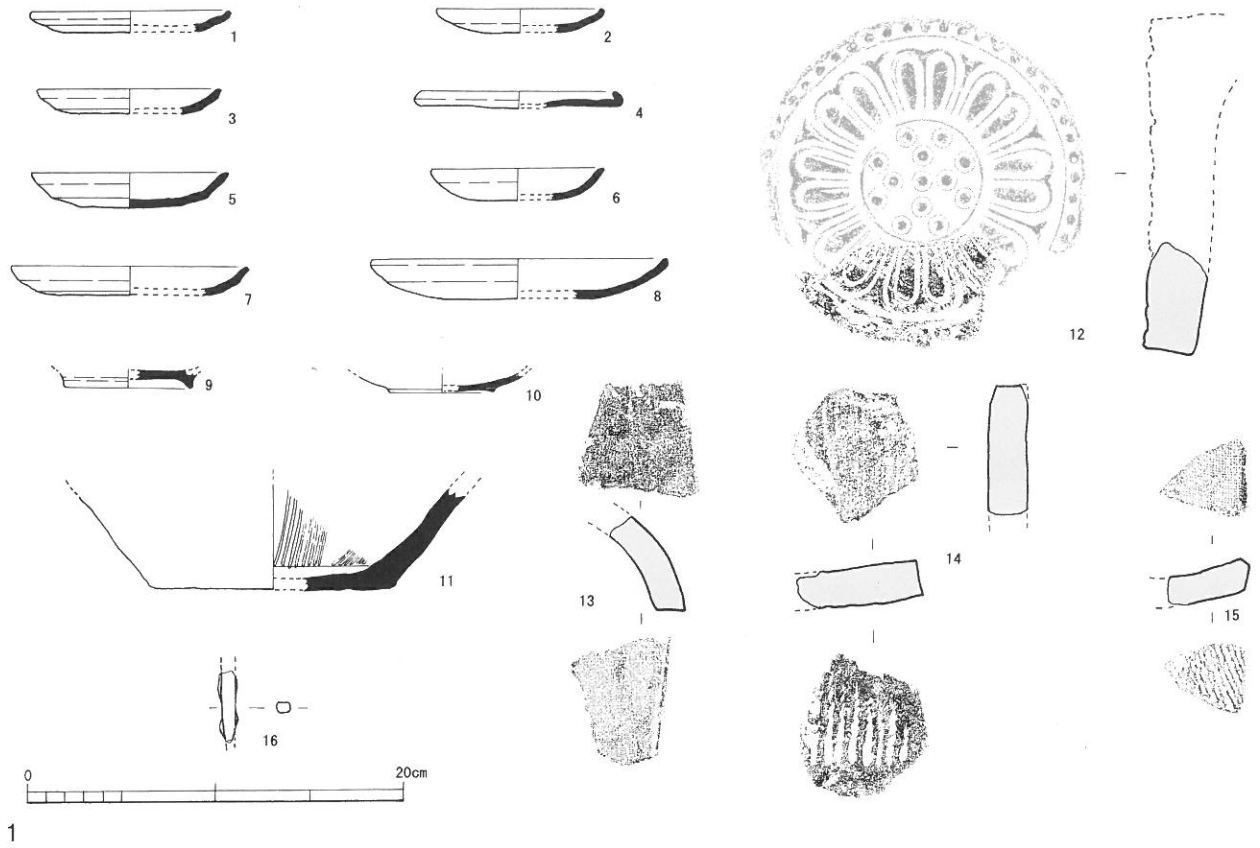


L=20,000m

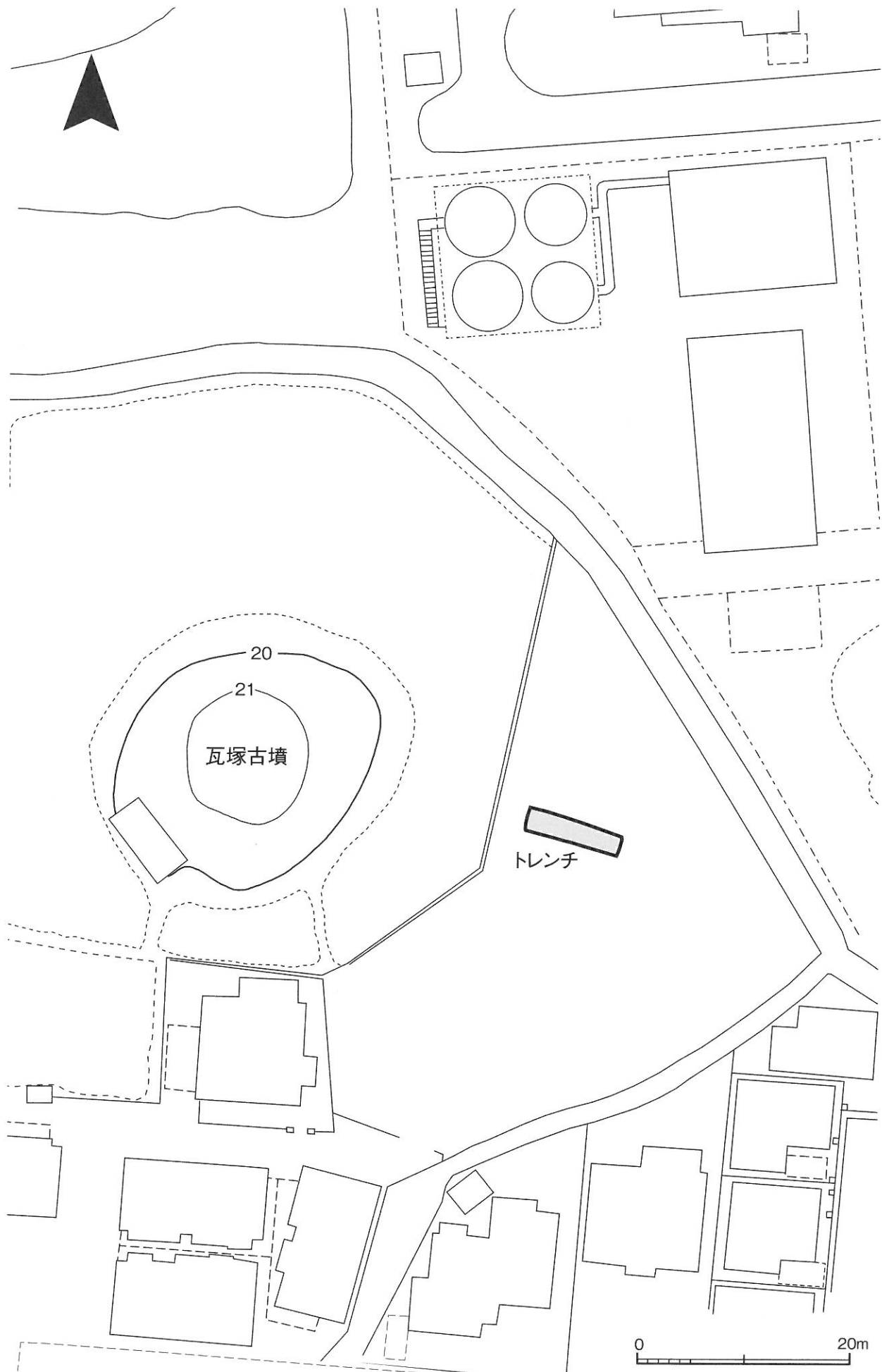


- 尺別
1. 黒褐色粘質土
  2. 黄灰色砂泥じり粘質土 (水分多く含む)
  3. 褐色砂泥じり粘質土
  4. 暗灰色粘土
  5. 暗灰色砂泥じり粘土 (水分多く含む)
  6. 褐色粘土 (水分多く含む 炭化物含む)
  7. 灰色砂泥じり粘質土
  8. 黄灰色砂泥じり粘質土 (炭化物少量含む)
  9. 反黄褐色砂泥じり粘土
  10. 暗反黄色砂泥じり粘質土 (炭化物少量含む)
  11. 黄灰色粘質土と黄褐色粘質土混じる (砂・礫少量混じる)
  12. 反褐色砂泥じり粘土
  13. 灰色粘土
  14. 灰才リニア包埋細砂粘質土と黄褐色粘質土混じる (しまりあり)
  15. 暗反黄色粘質土と黄褐色粘質土混じる (炭化物含む)
  16. 褐色粘質土 (硬め)
  17. 反黄褐色砂泥じり粘質土 (しまりあり)
  18. 黒褐色粘質土 (炭・炭化物少量含む)

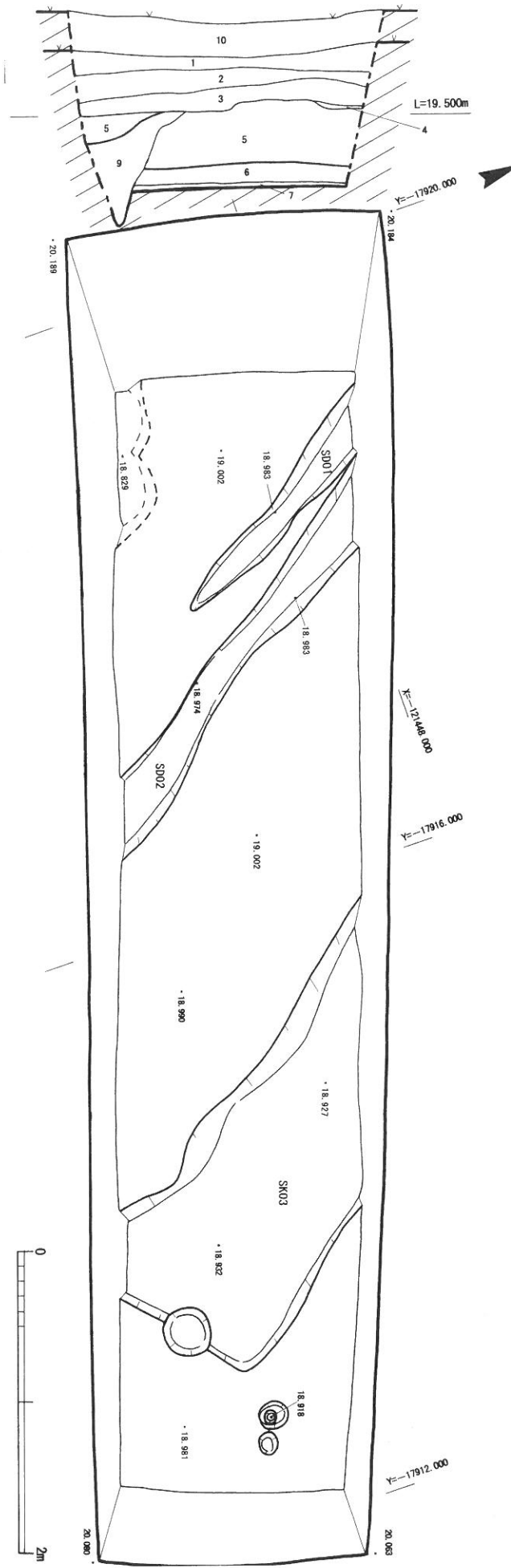




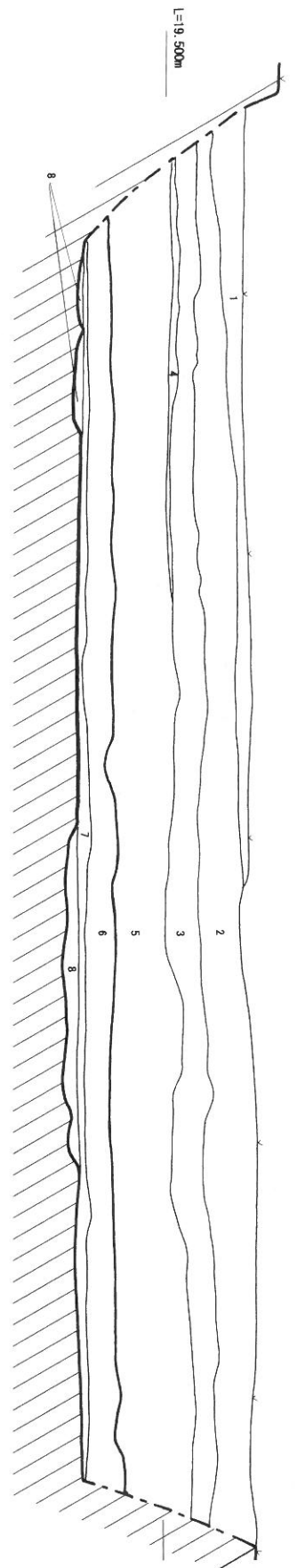
図版 4 瓦塚古墳トレンチ配置図



図版5 瓦塚古墳トレンチ実測図



- 凡例
- 1. 濃い黄褐色砂質土
  - 2. 濃い黄褐色砂質土 (礫多く含む)
  - 3. 褐色砂質土 (やや粘性 礫多く含む)
  - 4. 明黄褐色砂質土
  - 5. 黄褐色砂質土 (礫多く含む)
  - 6. 褐色粘質土
  - 7. 褐色粘質土 (しりあり)
  - 8. 暗灰黄褐色砂泥じり粘質土 (しりあり)
  - 9. 明褐色粘質土と褐色粘質土 (礫多く含む 灰化物含む)
  - 10. 褐色粘質土







# 写真図版

- 図版 1-1・・・岡本遺跡 調査前の状況（北西から）  
図版 1-2・・・岡本遺跡 調査風景（北から）  
図版 2-1・・・岡本遺跡 1 トレンチ全景（北から）  
図版 2-2・・・岡本遺跡 1 トレンチ全景（南から）  
図版 3-1・・・岡本遺跡 2 トレンチ全景（北から）  
図版 3-2・・・岡本遺跡 2 トレンチ全景（南から）  
図版 4・・・瓦塚古墳と調査地（東から）  
図版 5-1・・・瓦塚古墳 調査前の状況  
図版 5-2・・・瓦塚古墳 トレンチ全景（東から）  
図版 6-1・・・瓦塚古墳 トレンチ全景（東から）  
図版 6-2・・・瓦塚古墳 埋め戻し後の状況（東から）





1. 岡本遺跡調査前の状況（北西から）



2. 岡本遺跡調査風景（北から）



1. 岡本遺跡1 トレンチ全景（北から）



2. 岡本遺跡1 トレンチ全景（南から）



1. 岡本遺跡2トレンチ全景（北から）



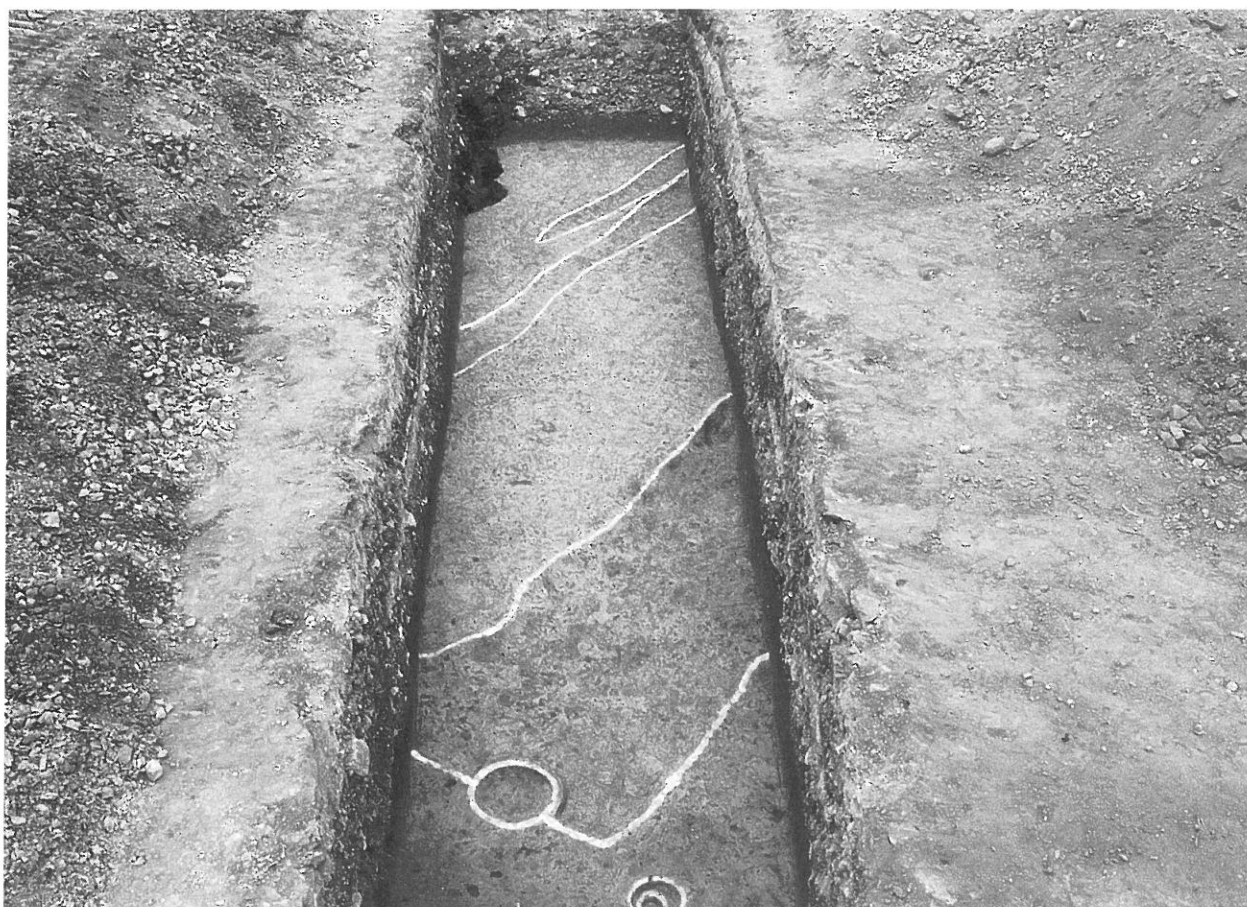
2. 岡本遺跡2トレンチ全景（南から）



1. 瓦塚古墳と調査地（東から）



1. 瓦塚古墳調査前の状況



2. 瓦塚古墳トレンチ全景（東から）



1. 瓦塚古墳トレンチ全景（東から）



2. 瓦塚古墳埋め戻し後の状況（東から）



## 抄 録

ふりがな	おかもといせき・かわらづかこふんはくつちょうさほうこくしよ							
書名	岡本遺跡・瓦塚古墳発掘調査報告書							
副書名								
シリーズ名	宇治市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第66集							
編著者名	荒川 史							
編集機関	宇治市歴史資料館							
所在地	〒611-0023 京都府宇治市折居台1-1							
発行者	宇治市教育委員会							
所在地	〒611-8501 京都府宇治市宇治琵琶33							
発行年月日	西暦2007年3月31日							
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	期間	面積	調査原因
岡本遺跡	宇治市五ヶ庄岡本4	26204	93	34° 54′ 25″	135° 48′ 3″	060310 { 060317	47.5㎡	共同住宅建設
瓦塚古墳	宇治市五ヶ庄瓦塚30-10	26204	4	34° 54′ 29″	135° 48′ 4″	060607 { 060609	18㎡	範囲確認
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
岡本遺跡	集落	奈良	土壙・溝・ピット	瓦・土師器・須恵器			試掘調査	
瓦塚古墳	古墳	古墳	溝・土壙・ピット	出土遺物無し				
成果要約	<p>岡本遺跡では、13世紀前半を中心とする溝・ピット等を検出した。また、付近に所在する岡本廃寺と同文の軒瓦も出土し、岡本廃寺との関連性も指摘できる。</p> <p>瓦塚古墳では、時期不明の溝・土壙などを検出したが、当初の目的の瓦塚古墳に関連する遺構は検出しなかった。</p>							



宇治市埋蔵文化財発掘調査報告書 第66集

## 岡本遺跡・瓦塚古墳発掘調査報告書

発行日 2007年3月31日

発行者 宇治市教育委員会  
〒611-8501 京都府宇治市宇治琵琶33番地

編集 宇治市歴史資料館  
〒611-0023 京都府宇治市折居台1-1  
TEL 0774-39-9260  
FAX 0774-39-9261  
email shiryoukan@city.uji.kyoto.jp

製作 プロフィッツ  
〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄折坂63-9



